これはOnomichiさんの
あきつ丸縛り・責め絵集です。
18歳以下の方の閲覧を禁じます。
また、内容の転載・複製・共有も
これを禁じます。
This is Onomichi's kankore girls
especialy Akitsu-maru's
BDSM art set.
This is for ADULTS!
Do not share online.
And if you share or find this online,
you must shout "BANZAI" three times.

陸軍所属の艦娘あきつ丸は、
提督不在中の各鎮守府の風紀調査を命じられました。
提督がいない間ゆるんでしまっている
艦娘たちのもとに派遣され
風紀を正しくするのが
彼女の任務です。

今回は艦娘たちから心うつりしていた
刀集めすらも飽きてどの松が一番かという
不毛な争いに身を投じ、
なかなか着任しない提督（♀）の
留守鎮守府に派遣されることになりました。

さてさて。

あきつ丸の
鎮守府なおし物語

派遣されたあきつ丸を待っていたのは、
秘書艦の加賀から寝込みを襲われて縛りあげられ責めを
受けるという事態でした。
周囲を見れば他の艦娘たちも加賀に従うか、
責めを受けるかをされているのです。
吊りあげられたあきつ丸は陸軍のプライドにかけて
服従すまいと睨み返しますが、加賀の圧倒的な力の前に抗するすべもなく
逆にその表情が彼女の加虐心に火をつけるのです。

ある日、他の艦娘、香取とともに縛られ放置されていた
あきつ丸はなんとか縄を解き、彼女から事情を聞きました。
加賀があのようになったのはもうすぐ大好きな赤城が
鎮守府に来るというときに提督が不在となり、
そのまま着任が流れてしまっているためだというのです。
加賀の行為が寂しさの裏返しということを知ったあきつ丸は、
目元を凛として帽子をかぶり部屋を出ていきました。

「ずっといびってくれましたね、へーえ、耳が弱いんだ！」
「こんな可愛い表情を見られるなんて、カワイイ」
[illegible]は抵抗していた加賀も諦めると同時に我慢していた
気持ちが決壊したのか、平静な嗜虐主義者を装う
張りつめた神経の糸が切れたのか、
泣きじゃくります。
しばらくしてやっと楽な気持ちになれたのでしょう、
加賀はもう抵抗する手段も心づもりもなく、
ただ今の状況に身を任せています。
こうして状況を調査し終えたあきつ丸は
この鎮守府を後にしたのでした。

しばらくしたのち、提督の管理の至らなさが
問題であったというあきつ丸の報告書によって
提督はお仕置きの後呼び戻され、
しばらくのちに赤城が着任し、
加賀はようやく待ち焦がれていた相方と硬い抱擁を、
縛れた体でしたそうです。

あきつ丸がついに表情を崩して泣きわめいたのは同じく明るい表情が豊かではない
雲龍とともに吊られた時でした。
あきつ丸を下にして二人の体を吊り上げ、しかもあきつ丸の上半身だけを吊り、
下半身は吊らずに両足つま先たちで踏ん張ることを強制させる姿勢を
強いられたところで二人の急所を紐できつく繋げられるという責めで、
ふんばる脚の力がなくなるにつれ、急所を責められる二人は取り乱していったのです。

しばらくして五航戦のふたりが呼び出されて提督執務室に行くと、あきつ丸と
裸で脚を広げさせられた格好で椅子に縛り付けられた加賀がいました。

「お二人とも、ご承知でしょう？加賀殿は寂しいのです。
愛がゆがんだ形で吐き出されている彼女には
慰めが必要でありましょう。
さア加賀殿、一度すべてを忘れて体を任せてごらんなさい、
思い切り叫んで体に心をまかせるのも悪くはなかった。
あなたがこの自分にしたことでありますよ」

特にあきつ丸は鞭などの痛みや羞恥にはこれをよく耐えましたが、
快楽を強制される責めには激しく抵抗しました。
他の艦娘たちの前であきつ丸の体がただの少女の
それと同じ無垢で敏感なものであると示されることは、
それがどうした、そんな生物的な反応誰にでもあるぞと
心中自分を説得し恥ずかしくないと務めようとする
あきつ丸にさえもどうしても恥ずかしくてたまらないのでした。
それを見せられる娘たちの中にはひそかに
心をときめかせているものも確かにいたのだそうです。

一度加賀の行為に声をあげて反抗した二人の艦娘、
五航戦の翔鶴と瑞鶴がいたのですが、
結局は加賀にしつけられた他の艦娘たちに抑えられ
手ひどい仕置きを受けたのです。

加賀の責めは休みなく行われ、
あきつ丸は特に縄を解かれて休みを取る暇もありませんでした。
あきつ丸のつとめて平静を装う表情は
確かに加虐嗜好の持ち主には壊してみたい対象にもなりえ、
彼女がプライドを保とうとする気持ちが
とりもなおさず更なる責めを呼び込むことになるのです。